

# 第10回（2009年度） 環境美化教育優良校等表彰事業報告

## — 第10回記念「特別賞」受賞校活動内容 —

すばらしい環境美化教育が全国各地で実践されています。  
環境美化教育を通して、まちの美しさ、郷土の美しさを  
守る心を育みましょう。

2010. 2

社団法人 食品容器環境美化協会

## 目次

1. 特別賞概要	1
2. 表彰校 活動紹介	
・北海道 鹿追町立笹川小学校	4
・岩手県 遠野市立綾織中学校	6
・山形県 酒田市立浜中小学校	8
・福島県 会津若松市立鶴城小学校	10
・茨城県 鉾田市立旭北小学校	12
・群馬県 渋川市立南雲小学校	14
・滋賀県 東近江市立愛東北小学校	16
・兵庫県 加東市立東条東小学校	18
・奈良県 奈良市立月ヶ瀬中学校	20
・福岡県 北九州市立曾根東小学校	22
3. 参考資料	24

---

# 1. 特別賞概要

環境美化教育優良校等表彰事業、第10回開催を記念して特別賞を設け表彰することと致しました。選考対象、表彰内容等については下記の通りです。

## 1) 選考対象

環境美化教育優良校等表彰第1回（2000年度）～5回（2004年度）受賞校を対象とする。（388校）

## 2) 選考要領

### ① 選考基準

特別賞の審査は継続性・独自性・発展性を評価基準とする。

### ② 審査委員会

#### 【審査委員長】

小澤 紀美子 東海大学教授

#### 【審査委員】

石井 節 財団法人 日本容器包装リサイクル協会 副理事長兼専務理事

柏木 順二 財団法人 日本環境協会 専務理事代行

小島 あずさ クリーンアップ全国事務局 代表

高橋 康夫 全国小中学校環境教育研究会 相談役

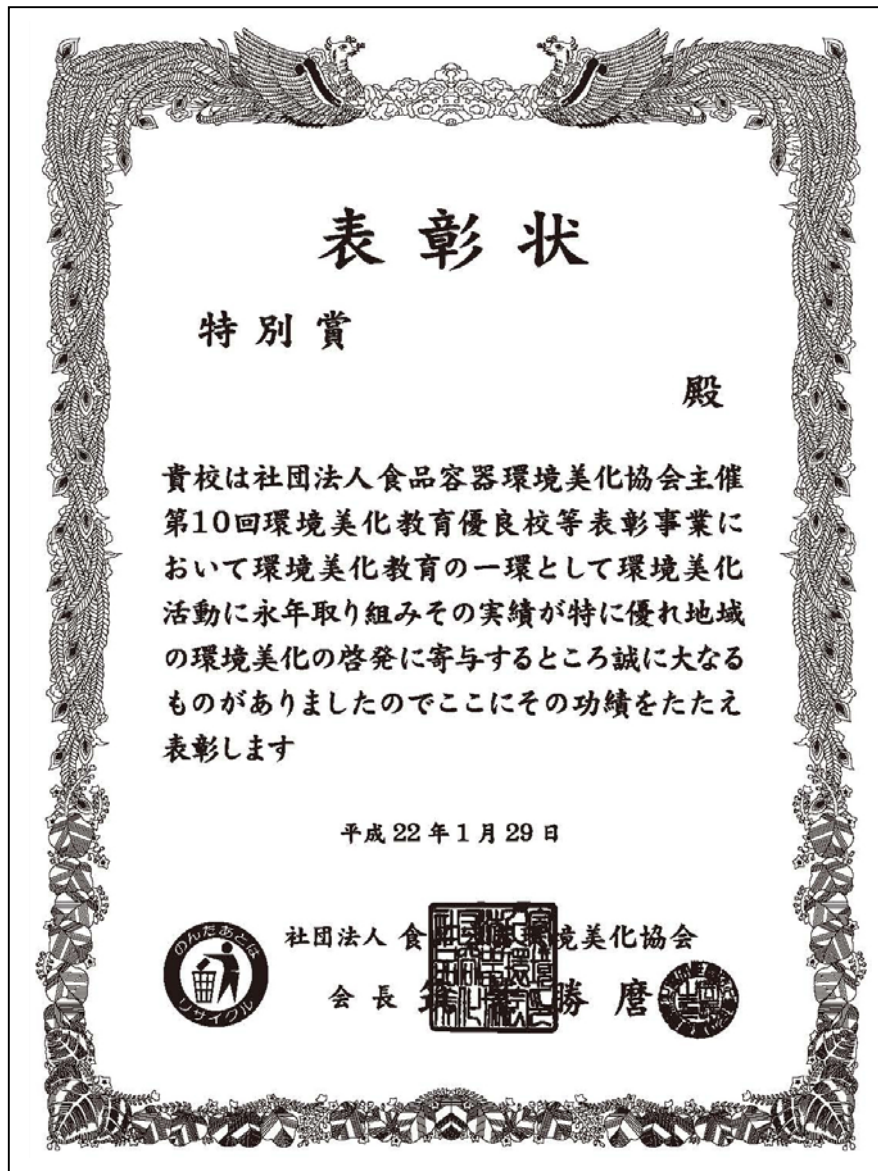
高梨 友夫 社団法人 食品容器環境美化協会 企画委員

（五十音順、敬称略）

### 3) 表彰内容

表彰校には記念の盾と副賞（図書カード等）を贈呈する。

(盾イメージ)



## 4) 表彰校一覧

第10回環境美化教育優良校等表彰  
「特別賞」表彰校一覧

北海道 鹿追町立笹川小学校

岩手県 遠野市立綾織中学校

山形県 酒田市立浜中小学校

福島県 会津若松市立鶴城小学校

茨城県 鉾田市立旭北小学校

群馬県 渋川市立南雲小学校

滋賀県 東近江市立愛東北小学校

兵庫県 加東市立東条東小学校

奈良県 奈良市立月ヶ瀬中学校

福岡県 北九州市立曾根東小学校

(10校)

# ～鹿追町小中高一貫教育に おける環境学習～ 「進め！ 笹川環境探検隊」

鹿追町立笹川小学校（第10回 環境美化教育優良校等表彰事業 特別賞受賞校）

笹川小学校は北海道の東部十勝管内帯広市の北西部に位置しています。北には大雪山系の山々と然別湖、西には日高山脈がそびえています。笹川小学校がある鹿追町では、町内の全学校が文部科学省の研究開発学校として指定を受けています。

その指定を受け、小中高一貫教育として小中高が連携して地球規模で課題となっている環境問題を正しく理解するとともに、児童生徒の自然観や人間観を育む教育を推進しています。同校でもその指針に沿って、学校独自の授業を含む地球科授業やカナダ学（英語教育）、環境学習に積極的に取り組んでいます。



学校独自の地球科の授業風景。児童たちも真剣に話を聞いています

## 「地球科」における環境学習

地球科では、様々な環境学習を実践しており「進め！ 笹川環境探検隊」と称して、平成21年度にバードハウスについての学習や、川の自然観察環境学習、町内環境関連施設の見学などを行いました。

バードハウス作りでは、NPO法人 フェザードフレンドの方々や保護者にバードハウスの制作から設置にいたるまで協力していただきました。児童たちは「ぼくのバードハウスにも、鳥が来てくれるかな？」「鳥が喜んでくれるといいな」など豊かな想像力を働かせ、楽しみながら取り組みました。

単に野鳥の保護や観察という観点だけではなく、この学習を通して森林の保護、自然景観の保全、環境問題、リサイクルなどを考える良い機会になっています。また、児童が一生懸命に制作したバードハウスに野鳥がくるところを見ることで、喜びや自然に対する興味を持つことが出来ています。





川の危険や安全指導を受けたあとに水質調査や水生生物の調査をします

また、川の自然観察環境学習では、学校の近くを流れる然別川の水質調査や水生生物調査を帯広市開発局の方々の協力を得て行いました。たくさんの水生生物を見つけるとともに、水質調査では透明度1m以上のきれいな川であることが分かりました。児童たちは、自分たちが住んでいる地域を流れる川が望ましい環境であることを知り、喜ぶとともに、素晴らしい環境を維持していくことの大切さを学ぶことができています。

### 恒例行事になっている環境美化活動

笹川小学校では、環境学習に力を入れて取り組むとともに、環境美化活動も積極的に展開してきました。

公務補の高橋さんが手塩にかけて育てて下さっている2000株以上の花の苗を、全校児童の手で小学校の花壇や、地域の特別養護老人ホーム「しゃくなげ荘」の花壇へ植える取り組みや、学校敷地内のゴミ拾いをしたりする奉仕活動は、どちらも本校の恒例行事となっています。また、児童と保護者が一緒になって学校中の窓拭きや清掃活動、空き缶回収を行う親子環境美化活動も、保護者や地域の方々の協力を得て行っており、どれもすでに10年以上の取り組みとなっています。

環境学習や美化活動を児童たちが体験することで自然との関わりを学び、教育方針でもある「生き生きと学び、自分の思いを表現できる児童の育成」に繋がっています。



窓拭きや清掃、遊具の補修など協力して行っています



今年、しゃくなげ荘では、ダリアやマリーゴールド、サルビアを植えました

### 【学校情報】※平成22年1月現在 北海道鹿追町立笹川小学校

#### ◆住所

北海道河東郡鹿追町笹川北9線10番地31

#### ◆学校長：伊藤義一

#### ◆児童数：17名

#### ◆創立：大正3年7月15日



# ～資源回収で新入生を紹介！～ 「新入生歓迎資源回収」

遠野市立綾織中学校（第10回 環境美化教育優良校等表彰事業 特別賞受賞校）

遠野市の西部に位置し、学校の南側には遠野盆地の田園地帯を潤している清流猿ヶ石川が東西に流れる遠野市立綾織中学校。肥沃な土地を利用した農業が盛んな一方、遠野物語にあるように伝説の宝庫でもあります。

綾織中学校は、昭和54年から継続して「新入生歓迎資源回収」に取り組んでいます。これは資源回収だけでなく、新しく中学生になった1年生一人一人を地域の方々に紹介することも目的の一つになっています。

まず、4月に新入生が地区の先輩と一緒に資源回収の案内チラシをもって、「今度綾織中学校に入学した〇〇です。よろしくお願ひします。」と一軒一軒訪問して、顔を覚えてもらいます。資源回収の当日も生徒数名と保護者や先生のグループで再び地域を回り、「綾織中学校の〇〇です。資源回収に来ました。よろしくお願ひします。」と挨拶と共に地域の方々とのコミュニケーションを大切にしながら、回収作業をします。回収にあたっては全PTA会員に、トラックや車を提供してもらうなどして支援してもらっています。

## 回収から、積み込み作業まで

学校に集められた回収物は

- ・新聞紙
- ・雑誌などの紙類
- ・牛乳パック
- ・段ボール
- ・肥料袋などの紙類
- ・一升瓶・ビール瓶
- ・アルミ缶類、スチール缶
- ・自転車などの鉄くず

に細かく分けます。

分けられた回収物は業者の車に積み込みますが、この積み込み作業も業者に任せるのではなく、生徒、保護者、教職員と一緒に活動します。



一軒一軒挨拶しながら資源回収を行います



地域の方々は回収日まで段ボールなどを家庭で取っておいてくれます





P T Aの方々がトラックを提供してくれます



仕分けされた回収物の積み込みまで生徒たちが行います

この資源回収は、地域に定着しているため、住民の方々は紙や瓶などを次の回収までとっておいてくれています。また、特に高齢者の方々は廃品を整理してもらえるとということで大喜びです。

たくさんの方々の協力を得て行っている資源回収は、自然保護やエネルギーの節約、地球温暖化の抑制に繋がっており、生徒たちもそのことを考え、理解しながら一生懸命に活動をしています。

### 地域活動へ積極的に参加

この資源回収を通して、生徒たちには限りある資源を大切にする心や、3 Rなどの環境に対する意識が自然に培われます。また、地域の方々に認められ、浸透しているという自尊心が、生徒の日常をととても落ち着いたものにしていきます。これは、地域の方々とのコミュニケーションや交流が「思いやり」の心を育てているからです。

また、資源回収活動だけでなく、さまざまな地域の活動に積極的に関わることが当たり前のこととして、生徒たちへ広がっています。

### 【学校情報】※平成22年1月現在 岩手県遠野市立綾織中学校

#### ◆住所

岩手県遠野市綾織町下綾織 1 3 - 5 - 2

#### ◆学校長：五内川 恵一

#### ◆生徒数：5 1 名

#### ◆創立：昭和 2 2 年 4 月 1 日



# ～地域と連携して継続、広がりを見せる クリーンアップ作戦～ 「庄内浜クリーンアップ作戦」

酒田市立浜中小学校（第10回 環境美化教育優良校等表彰事業 特別賞受賞校）

浜中小学校は、日本有数の穀倉地帯である庄内平野が広がる酒田市の浜中地区にあります。浜中地区は、砂浜と黒松の防風林（砂防林）が連なっている場所であり、東北でも有数のメロンの産地としても知られています。

浜中小学校では、「メロン給食」として地元でとれたメロンを給食に出しており、児童たちもその日を楽しみにしています。

学校の近くにある浜中海岸を学習素材に総合学習を実践しており、地域住民と連携して昭和40年代から「庄内浜クリーンアップ作戦」と称して海岸清掃などに意欲的に取り組んでいます。



昭和40年代から継続して行っている庄内浜クリーンアップ作戦



強い海風が吹き付ける中、児童たちは懸命にゴミを拾います

## 広がりを見せるクリーンアップ作戦

庄内浜クリーンアップ作戦は、毎年行われる学校行事として、全校児童で活動を展開しています。PTAの方々や地域住民、市の観光物産課の方々の協力を得ており、多くの参加者が庄内浜をきれいにしようと積極的に取り組んでいます。

また、地域住民や遊泳者に対して環境問題への意識を高めてもらうように、ごみ捨て禁止看板を作製しています。

この活動により、学校と地域が一体となって地域の環境について考え、海岸や地域のゴミを清掃する親子でのPTA活動や中学生との小中一貫ボランティア活動へと広がりを見せています。

平成13年度より、4年生を中心に進めている庄内浜の漂着物調査は、酒田海上保安部や県庄内総合支庁と連携して実践しています。ゴミを拾いながら砂浜に漂着したゴミの量や種類を調査します。



自然学習で飛島の漂着物調査も行いました

ゴミは、プラスチック片やペットボトル、流木が目立ったほか、漁網、タイヤなどもあり、児童は「何でこんなものが砂浜にあるのだろう」などと話し合いながらデータをとっていました。この活動を通してゴミの種類の多さに驚き、ゴミを捨てることは環境に良くないことだという気づきに繋がっています。また、この漂着物調査は酒田市にある離島、飛島でも行いました。

調査結果は、海上保安部で「漂着ゴミマップ」としてまとめられ、環境保全に向けた啓発活動に役立てられています。

このような庄内浜クリーンアップ作戦や漂着物調査活動は高く評価されており、平成18年度に海上保安部から「海上保安協力校」に指定されました。

浜中小学校では、誇りと夢を持つ子どもの育成を教育目標に掲げており、自分たちの住む地域を知り、暮らす人々の地域に対する思いに触れる活動を推進しています。児童たちの手で地域のためにできる環境美化活動を全校体制で積み上げてきています。



児童たちが自分たちでできることを考え働きかけることで地域の方々の環境美化に対する意識も高まっています

### 【学校情報】※平成22年1月現在 山形県酒田市立浜中小学校

#### ◆住所

山形県酒田市浜中宇上村370-2

#### ◆学校長：池田公夫

◆児童数：126名

◆創立：明治7年10月25日



# ～先輩から受け継がれる奉仕活動～ 「マイロード清掃活動」

会津若松市立鶴城小学校（第10回 環境美化教育優良校等表彰事業 特別賞受賞校）

会津若松市は福島県西部の会津盆地の中央に位置しており、磐梯山や猪苗代湖など豊かな自然に囲まれた、自然景観に恵まれたところです。

会津若松市立鶴城小学校は、会津若松市のシンボルである鶴ヶ城の近くに位置しており、児童たちは学習活動の一環として、鶴ヶ城に多く訪れ会津の歴史や先人たちの知恵、努力を学んでいます。

6年生による朝の奉仕活動を30年以上も継続して取り組んでいます。その中でも、学校正門前の歩道（マイロード）の清掃活動は、先輩から伝統として受け継がれているものの一つです。



学校の近くにある鶴ヶ城。児童たちも学習活動として多く訪れます



気持ちよく歩けるように児童たちが年間を通して主体的に取り組んでいます。

## 年間を通して活動

マイロード清掃活動は、通勤や通学、地域の方々が気持ちよく歩くことができるようにと、児童たちがゴミ拾いや落ち葉掃き、そして冬には除雪作業と年間を通して主体的に活動を行っています。

その活動は歩道をきれいにするだけでなく、気持ちの良いあいさつを児童自ら進んで行っており、地域の方々とのコミュニケーションの場になっています。通勤する方々や地域の方々からは、児童の清掃に取り組む姿勢や元気にあいさつをする姿が称賛され、さらに責任を持って取り組む気持ちと、これからも引き継いでいこうとする意識の高まりに繋がっています。

また、一生懸命に活動をする児童たちを見て、地域の方々や近隣にお勤めの方々も一緒になって清掃活動を行う機会が増えてきています。



コピー用紙の裏面を利用して計算や漢字の練習をしています

また、これらの取り組みでは決まったことを行うのではなく、児童会委員会の中で児童たちが「自分たちでできること」を話し合い、アイデアを出し合いながら活動を進めています。

そのため、児童たちにリサイクルの大切さを考える気持ちや責任感が生まれてきます。昨年度は、これまでの取り組みが評価され、様々なメディアに活動の様子を取り上げられました。県内に活動内容が紹介されたことにより、さらに意欲的に実践しています。

教職員も児童たちの取り組みを支援しており、リサイクルを常に意識させるための環境づくりに取り組んでいます。

## 環境にやさしい鶴城小学校

さらに、平成13年度から会津若松市が取り組んでいる「学校版環境ISO」に登録し、全校児童および教職員で省エネルギー活動やゴミの分別活動に積極的に取り組んでいます。

特に、児童会委員会の環境リーダーが中心となり、リサイクルペーパーの回収や電気の節電運動、水道の節水運動、牛乳パックのリサイクル、残さいゼロ運動など「環境にやさしい鶴城小学校」を目指して実践しています。



給食のときに飲んだ牛乳のパックはバケツで水洗いし、乾かして古紙として回収してもらいます

### 【学校情報】※平成22年1月現在 福島県会津若松市立鶴城小学校

#### ◆住所

福島県会津若松市東栄町7番7号

#### ◆学校長：佐藤憲

◆児童数：357名

◆創立：明治6年6月



# ～身近な自然を守れ！～ 「涸沼(ひぬま)浄化活動」

銚田市立旭北小学校（第10回 環境美化教育優良校等表彰事業 特別賞受賞校）

銚田市立旭北小学校は、東茨城台地、鹿島台地に囲まれ、近くには涸沼川や大谷川が流れています。

自分たちの住んでいる涸沼の環境を守るため、旭北小学校では地域に根ざした身近な環境問題を自分たちの問題としてとらえ、できる取り組みは何かを考えて環境委員会で話し合いを行いました。その解決の一つが、全校児童141名による通学路や学区内の涸沼堤防のゴミ拾いを行う涸沼浄化活動です。

今年度も「ゴミゼロで魚が集まる涸沼にしよう」というスローガンをもとに活動に取り組んでいます。

涸沼浄化活動は年2回実施され、1回目は3.5キロメートル離れた「いこいの村涸沼」にあるアイリスパークという場所まで徒歩でゴミ拾いを行います。歩くコースを低・中・高の3コースに分け、家庭より持ち寄ったレジ袋に、缶・ビン・燃えるゴミ・燃えないゴミと分別をしながら目的地まで歩きます。



自分たちの住んでいる地域をきれいにするため  
児童は積極的にゴミを拾います



涸沼の堤防沿いを歩きながらゴミを回収していきます

## 水質検査を行い現状を理解する

高学年の児童は、学校のすぐそばを流れている大谷川沿いを北上しながら堤防の下などのゴミを拾います。途中で水質検査を行い、その結果を「涸沼浄化推進小学校連絡会議」において年1回発表しています。

数年前に水質検査を始めた頃より、ゴミは減り水質も良くなってきましたが、他の川と比較するとまだ汚れているようです。

地域の方々とも協力しながら一人ひとりの努力や協力で更なる環境改善に繋がるように調査を継続していきます。



涸沼の環境についてゲストティーチャーを招いて話を聞いています

### 涸沼の環境について学習する

環境学習の一環として、茨城県環境アドバイザー派遣事業を活用し、アドバイザーの方に来ていただき講演をしてもらいました。現在の涸沼流域の魚の話や魚と水との関係、涸沼と大谷川の水質検査についてなど、とても分かりやすく丁寧に説明してもらいました。このような学習を行うことによって、児童の中に環境に対する関心が高まっています。

### 地域への呼びかけと今後の展開

涸沼浄化活動においてはたくさんのゴミがでるため、PTAの方にゴミの回収作業などを協力してもらっています。毎年活動を行っていますが、年々、ゴミの量が減ってきています。以前は拾いきれないほどあったゴミが、今はあまり見られなくなりました。

また、地域の方々の意識も高まり、一緒にゴミ拾いを行っています。自分たちの住む地域がきれいな環境を保つには、地域や社会の協力が必要であることをこの活動を通して呼びかけていきたいと考えています。今後は、さらなる発展を求めて活動の見直しを行い、さらに環境美化を推進していくとともに、新しい活動にも取り組んでいきます。



PTAの方々にトラックを提供してもらいゴミの回収を協力してもらっています

### 【学校情報】※平成22年1月現在 茨城県銚田市立旭北小学校

#### ◆住所

茨城県銚田市田崎3852

#### ◆学校長：石崎とも子

#### ◆児童数：141名

#### ◆創立：昭和52年4月1日



# ～小さな命を守る活動～ 「ふもとまでヒメギフチョウが たくさん舞う南雲の里」を目指して

渋川市立南雲小学校（第10回 環境美化教育優良校等表彰事業 特別賞受賞校）

渋川市立南雲小学校は、群馬県を代表する赤城山のふもとに位置し、学校の東側には鈴ヶ岳、またすぐ近くを沼尾川が流れており、自然豊かな地域にあります。その特性を生かし、南雲小学校では様々な環境教育に力を入れて取り組んでいます。

平成7年度から、県の天然記念物に指定されているヒメギフチョウの保護活動に取り組むようになりました。関東地方では赤城山にしか生息しておらず、絶滅危惧種になっています。その貴重な生息地を生かした体験学習を行うことにより、児童たちの中に自然環境への関心が広がっています。



ヒメギフチョウを守ろうと児童たちは一生懸命活動しています



## ヒメギフチョウを守るために

赤城山に生息するヒメギフチョウは、他の地域に生息するものに比べて体が少し大きく、赤い模様が鮮やかなことから、愛称「赤城姫」の名で広く親しまれています。

<ヒメギフチョウ保護活動の流れ>

- 4月 5年生が1年生にヒメギフチョウのことを教えます。また、講師の方を招いて自然観察会のための事前学習会を実施します。
- 5月 全校児童による自然観察会
- 6月 幼虫観察会
- 10月 ヒメギフチョウ保護を訴える看板立て
- 11月 地域交流会において保護者や地域の方々に保護活動の取り組み状況を発表します。

このように、年間を通して全校で保護活動に取り組んでいます。「小さな命を守る活動」を通して命の大切さや自然と人間との関わりに気づくとともに、自然豊かな南雲の里を守っていくという気持ちを育てています。



看板を作成し、ヒメギフチョウの保護を訴えています





児童たちは積極的にゴミを拾っています

毎年、10月にはヒメギフチョウの生息地域を守ろうと「赤城姫を愛する集まり」の方々、南雲の里父親クラブ、地域、市の教育委員会、ボランティアの方々など多くの方々の協力を得て山の下草刈りを行っています。平成20年度は、総勢約120人の方々の参加を得ました。同校の4年生も参加しており、実際に体験することで自然に触れる良い機会になっています。

保護者、地域、保護団体などの方々との連携して行っているヒメギフチョウ保護活動は、多方面で評価され、多くの表彰を受けています。

このように地域を挙げて一つの生命を守ることで、児童たちに環境の大切さ、守ることの難しさなど多くのことを伝えています。

### 保護者、地域、保護団体と連携した活動

全校児童での自然観察会の際にはゴミ袋を持参し、山頂までの山道や途中にあるキャンプ場でゴミ拾いを行うなど、ヒメギフチョウにとって生息しやすい環境を作ろうと、児童たちが自ら考え行動しています。保護者の方々も、キャンプ場で児童たちの昼食の炊き出しをしていただくなど、協力してもらっており、親子のコミュニケーションを図る場にもなっています。



多くの方々の協力を得て保護活動に取り組んでいます

### 【学校情報】※平成22年1月現在 群馬県渋川市立南雲小学校

#### ◆住所

群馬県渋川市赤城町長井小川田1435番地

#### ◆学校長：高橋誠

#### ◆児童数：73名

#### ◆創立：明治6年2月4日



# ～散乱ごみから水鳥を守れ！～ 「はとの子自然探検隊」

東近江市立愛東北小学校（第10回 環境美化教育優良校等表彰事業 特別賞受賞校）

鈴鹿山脈の山裾に位置し、田畑や果実園の広がる農村地域にある東近江市立愛東北小学校。この地域は今では全国的に広がっているリサイクル事業の「菜の花プロジェクト」の発祥地でもあります。

学校の近くにある「恵美須溜」には、冬が近づくと多くの水鳥が飛来しますが、水鳥に害を及ぼす散乱ごみが多く見られます。愛東北小学校は、昭和42年より何度も愛鳥モデル校の指定を受け、学校周辺のため池での水鳥観察と散乱ごみの回収を続けています。



「はとの子遠足」で清掃活動。子どもたちは地面にひざをつけて積極的にゴミを拾います



有識者にごみによる水鳥の被害をお話していただきます

## 水鳥が受けるごみの影響を具体的に知る

愛東北小学校では、6月に全校で行う「はとの子遠足」で周囲の散乱ごみを回収します。この活動は全学年で行うため、学年が上がるにしたがって、下の学年のお手本にならなくてはならない、みんなを引っ張っていかなければならないという責任感が生まれます。

また、ゴミ拾いのあとに、地元池之尻町の水鳥観察の有識者にお話をしてもらいます。水鳥が誤ってごみを食べてしまい死んでしまったり、釣り糸が足に絡まるなどの散乱ごみでの具体的な被害を聞くことで、児童たちはごみの散乱を防ぎたいという環境への配慮の気持ちが生まれます。

## 野鳥を観察しながらのごみ拾い



水鳥の観察。ごみを拾うことで水鳥を守っていることを実感します

5・6年生の総合的な学習の時間では、「はとの子自然探検隊」と称して、身近な自然を考える環境学習を実施しています。

秋から冬にかけての時期に、校区内のため池に出かけ、「ごみを捨てる人は何を考えているのだろうか?」「どうしたらポイ捨てがなくなるのだろうか?」といったことを話し合いながら、ごみを拾い活動を行います。生物を思いやり、生命に関わる活動を通してゴミを拾うことにより「ポイ捨てはいけないことだ」、「中学校へ行ってもため池をキレイにしたい」などの思いが強くなります。



5・6年生による「はとの子自然探検隊」で清掃活動を行います

さらに、平成21年度から22年度にかけて青少年赤十字活動の研究指定を受け、「奉仕」「環境」「健康・安全」「国際理解」の実践目標について、主体的に取り組む児童の育成をめざしています。

特に青少年赤十字活動の「気づき」「考え」「実行する」という態度目標は、散乱ごみの回収活動にも通じ、研究の中核として位置づけ、取り組んでいます。滋賀県が独自に進める、環境学習の内容を家庭や地域で実践する「エコ・スクールプロジェクト」にも取り組んでおり、活動を通じて、主体的に地域への関わりをもてるような子どもたちの育成につながっています。

【学校情報】※平成22年1月現在

### 滋賀県東近江市立愛東北小学校

◆住所

滋賀県東近江市百済寺本町1399番地

◆学校長：今井清

◆児童数：142名

◆創立：明治30年4月1日



# ～きれいな川をとりもどそう！～ 「生命かがやけ東条川」

加東市立東条東小学校（第10回 環境美化教育優良校等表彰事業 特別賞受賞校）

加東市の東側に位置し、学校の近くには東条川が地域を潤しながら流れる加東市立東条東小学校。

近年では、都市化も進みつつある地域で、利便性も増してきましたが、反面、それゆえの環境破壊・汚染も進んできています。学校のすぐそばを流れる東条川もその例外ではありません。かつてはカジカが鳴き、ホタルが乱舞する清流でしたが、年々汚れを増し、魚種も激減しています。その汚染の主な要因は家庭排水にありました。

ふるさとを潤してきた東条川をこれ以上汚さないようにと児童が汚染防止のために積極的に活動を始めました。後にその活動を受け継ぎ、東条川を軸にした環境学習に取り組むようになり、現在では、学校の取り組みとして総合的な学習の中に位置づけています。



学校の近くを流れている東条川



生物探しや水質検査など独自の授業に取り組んでいます

## 東条川を軸にした環境学習

東条東小学校では、学校独自のカリキュラムを立て、継続的に取り組めるようにしています。

- ・低学年  
「出会う」時期として、水遊びや生物探し
- ・中学年  
「探る」時期として、水生生物調べや水質検査、ホタルの生息調査
- ・高学年  
「広げる・深める」時期として、川と農業の関係やふるさとの環境問題

このように、低学年の時から東条川と接し、楽しさを味わうことから学習を始め、学年があがるごとにその幅を広げていきます。



研究員の方にお話をしてもらい児童の環境への関心が高まっています

### PTA活動の一環として始まった 東条川クリーン作戦

PTA活動の一環として行っている東条川クリーン活動は、年に1回、保護者や地域の方々、中学生と連携しながら実施しています。空き缶や燃えるゴミ、燃えないゴミなどを分別して回収し、東条川をきれいにするため参加者一人一人が積極的に取り組んでいます。

活動を通して、学校と保護者・地域との協力関係が深まっています。この協力関係をさらに強くして、他の分野の総合的な学習（福祉・健康等）にも取り組んでいきます。



保護者や地域の方々の協力のもと、児童たちは積極的に川のゴミを拾います

### 【学校情報】※平成22年1月現在 兵庫県加東市立東条東小学校

#### ◆住所

兵庫県加東市掬鹿谷56番地

#### ◆学校長：田中勲

◆児童数：205名

◆創立：明治9年11月2日



# ～自分たちにできるボランティア活動 で地域の福祉に貢献を～ 「アルミ缶回収活動」

奈良市立月ヶ瀬中学校（第10回 環境美化教育優良校等表彰事業 特別賞受賞校）

奈良市の北東端に位置し、古くから有名な文人墨客が訪れた名勝月瀬梅林。現在も多くの観光客が訪れる、風光明媚なところに月ヶ瀬中学校があります。

平成8年度から生徒会の取り組みで始まったアルミ缶回収活動は、毎月1回行われ、開始から14年間継続して実施している自慢の活動です。準へき地の小規模校のため、全校生徒数43名で一斉に活動するだけでなく、地域住民の協力・支援を得て展開しています。平成19年度にはこの活動が評価され、アルミ缶リサイクル協会から感謝状をもらいました。



地域の方々の協力もありたくさんのアルミ缶が学校に集められます。



アルミ缶リサイクル工場でアルミ缶がどのように再生されるのを見学し学んでいます。

## アルミ缶回収活動の流れを知ることによる 気づき

### <アルミ缶回収活動の流れ>

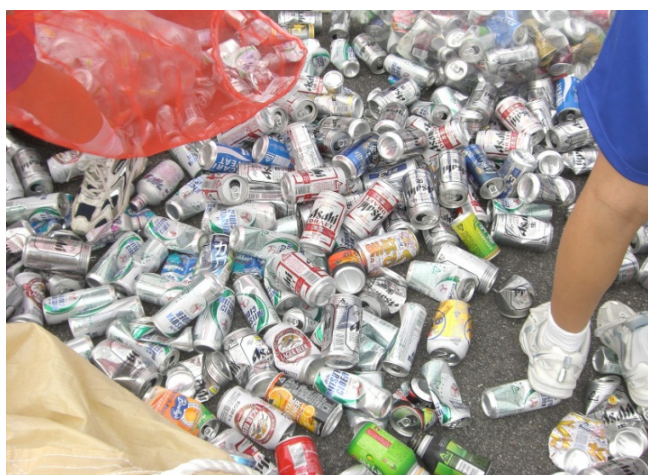
- ・生徒による回収袋配り
- ・地域住民協力のもとアルミ缶を学校に回収
- ・生徒全員が協力してアルミ缶を取り出す
- ・足で踏んで潰しトラックに積み込む
- ・近隣のアルミリサイクル工場に搬入

アルミ缶リサイクル工場では、持ち込んだアルミ缶がどのように再生されるのを見学して学習します。見学することにより、生徒たちが毎月実施しているアルミ缶回収活動の意義に気づき環境に対する理解や意識の高まりに繋がっています。

また、リサイクル工場で体験・学習したことを生徒各自が様々な視点でまとめ、そのまとめた内容をホームページにのせて学校外へと発信しています。



地域の社会福祉施設に車椅子を寄贈しています



年間で約3トンのアルミ缶を回収しています

## アルミ缶で車椅子を！

アルミ缶回収活動は、平成7年度に行った英語の授業（飢えに苦しむ外国の子供たちを取り上げた内容）の中で、生徒たちが「今の自分たちにできることは何か」を考えたことがきっかけで始まりました。その後、その意志を受け継いだ生徒会執行部が再度「自分たちにできることは何か」を考え生徒総会で提案し、「アルミ缶で車椅子を！」のスローガンのもと、生徒全員で地域全戸からアルミ缶を集め、その収益金で福祉施設に車椅子を寄贈しようということになりました。

現在では、多くの方の協力のもと、70台以上の車椅子を寄贈することができています。他にも介護ベッドや歩行車など、多くの福祉器具を寄贈し、地域に貢献しています。

このような地域に根ざした体験活動を押し進めることで、地域環境を理解するだけでなく、“地域で体験、地域に貢献、そして地域と繋ぐ活動”の展開を目指しています。この活動が、環境美化や資源の有効利用になるとともに、自分たちにできるボランティア活動を行い、地域の福祉に貢献すること、地域の人々との交流や、さらなる地域の活性化につながっていくことを期待しています。

【学校情報】※平成22年1月現在  
奈良県奈良市立月ヶ瀬中学校

◆住所

奈良県奈良市月ヶ瀬尾山2551

◆学校長：西浦範光

◆生徒数：43名

◆創立：昭和22年4月22日



# ～地域一丸となって取り組む クリーン作戦～ 「曾根干潟クリーン作戦」

北九州市立曾根東小学校（第10回 環境美化教育優良校等表彰事業 特別賞受賞校）

北九州市小倉南区の東側に広がる、西日本有数の曾根干潟の近くに位置する北九州市立曾根東小学校では、平成9年から学校行事として「曾根干潟クリーン作戦」を行っています。

この活動のきっかけは、5年生児童が曾根干潟で釣り糸が首に巻き付き苦しむ野鳥を助けたことにはじまります。

「曾根干潟クリーン作戦」は毎年6月と10月の2回実施しています。特徴は、実施までの継続的な告知にあります。まず年度の初めに、全校保護者などに開催日の周知を行います。実施1ヵ月前になると、校区全体に実施の案内プリントを配布し、さらに実施2週間前には、6年生の児童が手作りポスターをランドセルに貼って、登下校の際に校区の住民に自然な形でアピールをしたり、校区内のスーパーや市民センターなどに掲示をお願いしたりします。そして実施2、3日前には、6年生の希望者が夕方にJ R 下曾根駅やスーパー前で手作りのチラシを配布するなど、さまざまな啓発活動を実施しています。



児童たちは駅前でチラシ配布をします



地域住民にチラシを渡したり、市民センターなどに掲示をお願いします。ランドセルにも貼って告知します



当日はみんなで清掃活動にあたります

## 保護者、漁協、地域住民、行政が一丸となって

「曾根干潟クリーン作戦」は地域住民や保護者向けの案内文書を作成し案内するだけでなく、曾根東校区まちづくり協議会や地元の「曾根漁協」や保育園、曾根東市民センターなどにも声をかけています。

そのため、保護者やPTAだけでなく、漁業関係者や保育園児、チラシ配りでお世話になったJRの駅員、地元の事業所など、多くの人たちが児童と一緒に清掃活動に参加します。





地域の方々も積極的に参加しています

### 6年生で新たな清掃活動へ発展

全学年によるこの「曾根干潟クリーン作戦」は、6年児童による曾根公園や学校周辺のクリークの清掃活動である「ソネットエコ隊ゴミひろうんジャー」の発想・活動に発展しています。また、ごみの量や種類について、中高学年では総合的な学習の時間や社会科の学習活動の導入として使われたり、低学年では小さな流木などの自然漂流物を学校へ持ち帰って着色し、生活科や図工のエコ作品としたりすることを通して、身近な自然を守るということが省資源・省エネルギー領域の学習につながり、エコ啓発になっています。

さらに、卒業生が中学校で「映像詩曾根干潟から」を作成し、東京ビデオフェスティバル優秀作品賞を受賞したり、大学の卒論で「曾根干潟」をテーマとして取り扱ったりと、在学中だけでなく卒業しても環境への関心を失わずに高い意識を継続するものとなっています。



行政の方々の支援もいただいています



### 【学校情報】※平成22年1月現在 福岡県北九州市立曾根東小学校

#### ◆住所

福岡県北九州市小倉南区中曾根東3丁目5-1

#### ◆学校長：柴田敏行

◆児童数：410名

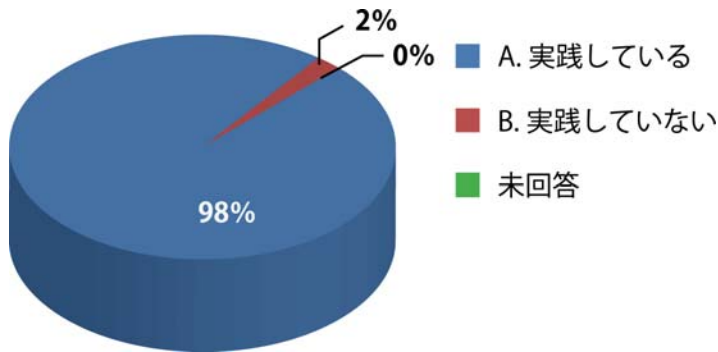
◆創立：昭和52年4月1日



### 3. 参考資料

#### ～ 調査結果報告 ～

本表彰に際して行った調査結果についてお知らせ致します。



#### Q1. 活動状況

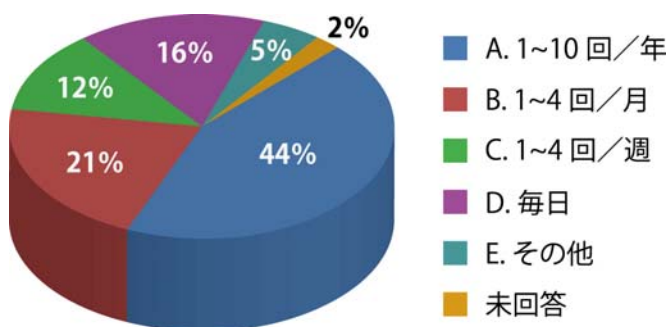
##### 【分析コメント】

調査対象（第1回～第5回表彰校）388校中、半数強の56.7%に当たる220校から回答が得られた。回答してくれた学校の98%は環境美化教育活動を現在も継続していた。

#### Q2. 活動内容

##### 【分析コメント】

活動内容の区分については、23%が「散乱防止・清掃活動」であり、また22%が「リサイクル活動」であった。52%がその両方あるいは特に区別なく活動している結果であった。



#### Q3. 活動頻度

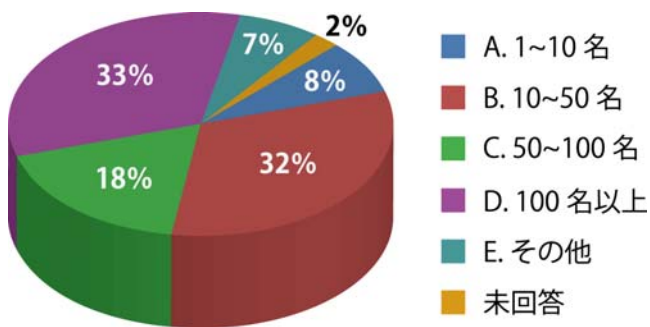
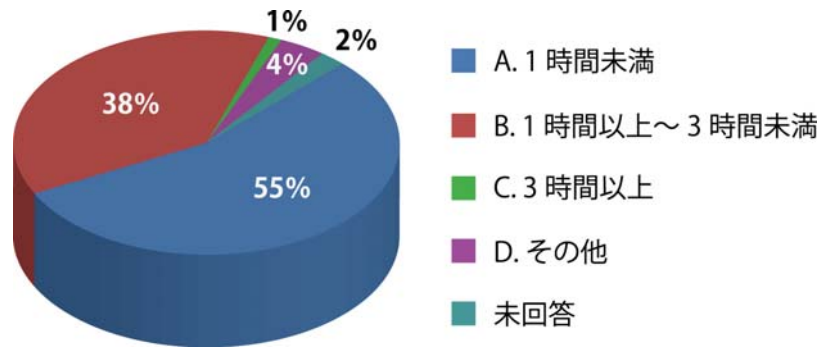
##### 【分析コメント】

活動頻度で一番多かったのは、「年に1~10回」で44%。その次に「月に1~4回」が21%。「毎日」が16%、「週に1~4回」が12%と続く。

Q4. 活動時間

【分析コメント】

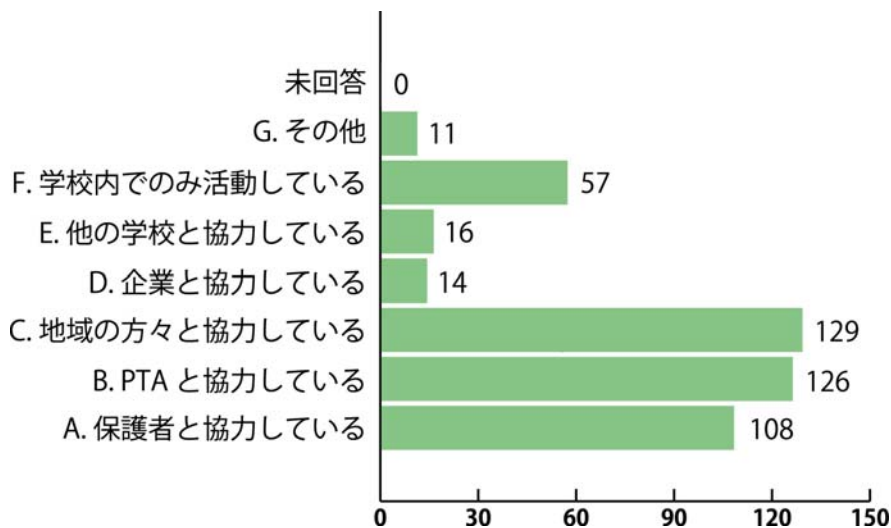
1回の活動時間で一番多かったのは、「1時間未満」で55%。続いて「1時間以上～3時間未満」が38%。



Q5. 参加者数

【分析コメント】

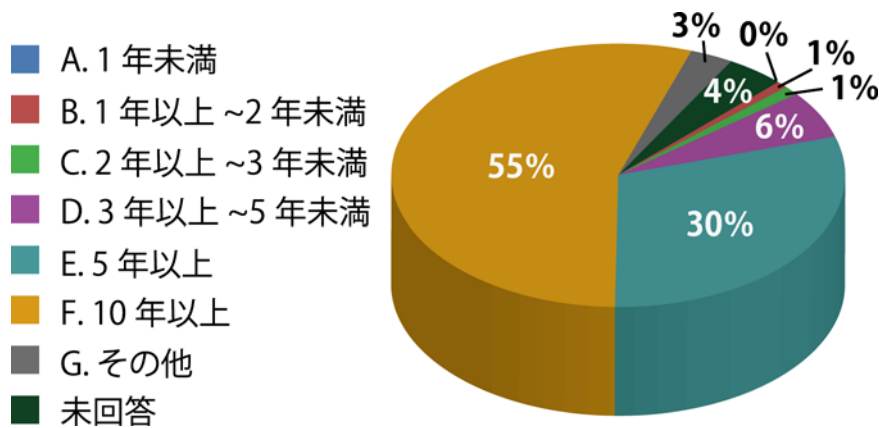
「10～50名」と「100名以上」という規模がそれぞれ32%、33%と多かった。続いて「50～100名」が18%。



Q6. 地域との関係

【分析コメント】

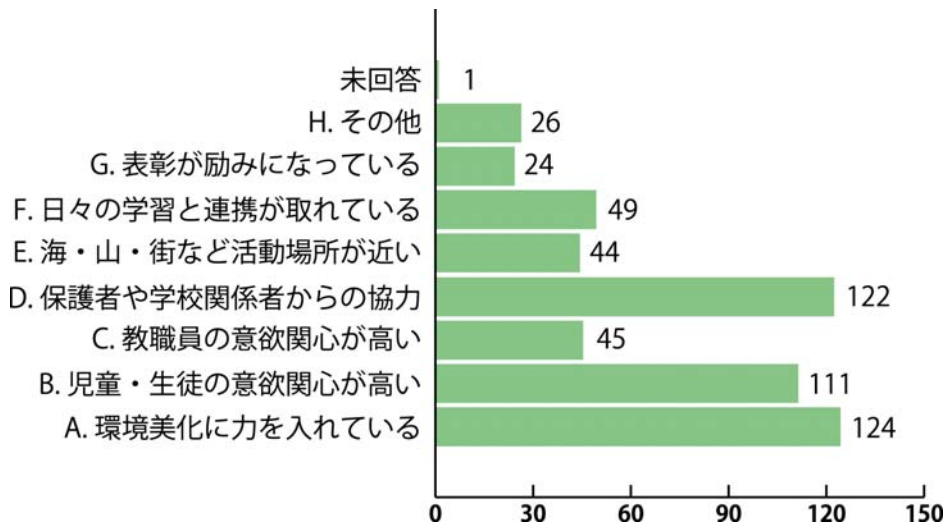
地域との協力関係について一番多かった回答は、「地域の方々と協力」で、回答校220校の約6割に当たる129校が答えた。ほぼ同数の126校が「PTAと協力している」と答えた。次に多かったのが、PTAに限らず「保護者と協力している」で、全体の約半数に当たる108校が答えている。これらに比べると「企業との協力」「他校との協力」は稀なケースで、それぞれ14、16校に留まった。一方、「学校内でのみ活動している」という学校も57校見られた。4分の3程度の学校が、地域と何らかの協力関係を持っていることがわかった。



Q7. 活動継続期間

【分析コメント】

活動の継続期間については、「5年以上」継続している学校が全体の85%を占め、中でも「10年以上」の学校が過半数の55%を占めた。長きに渡り継続している学校が非常に多い。「1年未満」の学校はなく、「1年以上～5年未満」は合わせても8%であった。



Q8. 活動継続の要因

【分析コメント】

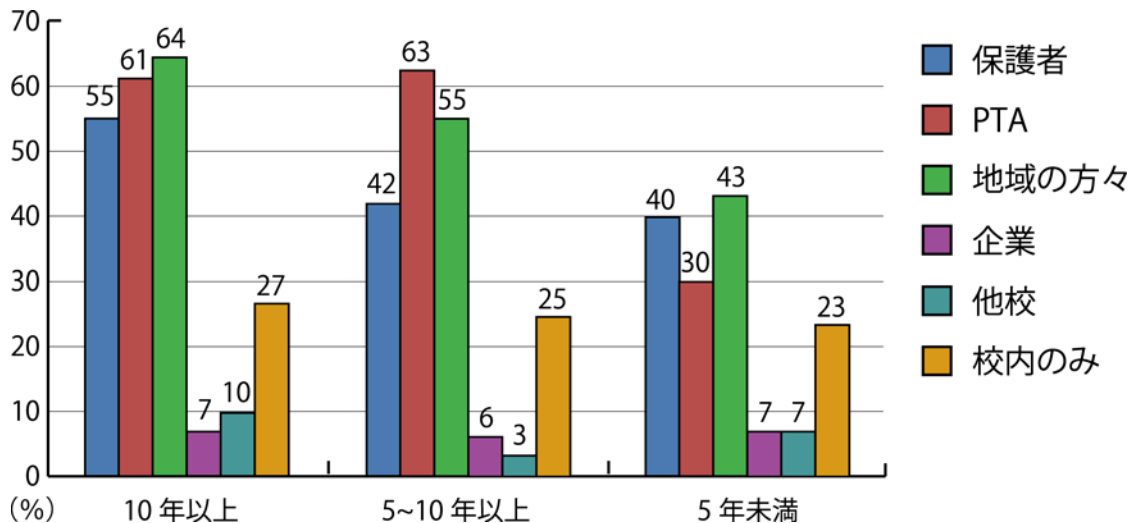
活動継続の要因で一番多かった回答は、「環境美化に力を入れている」で、回答校220校の6割弱に当たる124校。環境美化教育活動に学校の方針として取り組んでいる様子が窺える。続いて「保護者や学校関係者からの協力が得られる」と答えた学校が122校。協力体制の有無がポイントとなっていることが改めて分かる。3番目に多かったのが「児童・生徒の意欲関心が高い」で111校。学校の方針、協力関係、児童・生徒の関心の高さ等が特に活動の充実と相互に関係しているようである。

② 活動継続期間と他の質問項目との関係について

【分析の方法】

活動継続期間の長さによって「10年以上」「5～10年」「5年未満」の3グループに分類した。それぞれ123校、67校、30校が含まれた。この3グループで、他の質問項目の回答傾向に差が見られないか検証した。

「活動継続期間」(Q7)と「地域との関係」(Q6)との関係

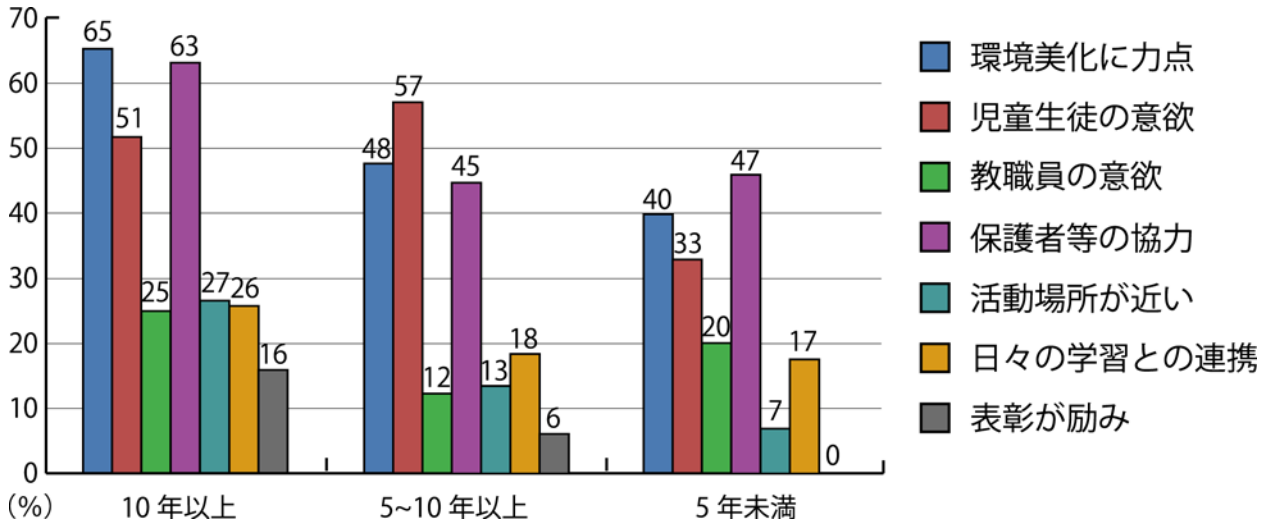


【分析コメント】

いずれのグループにおいても「保護者」「PTA」「その他地域の方々」との協力体制が比較的多いことは同様であるが、「10年以上」のグループでは、その3者のいずれも55%を超えて高い。協力体制が整っていることが窺われる。対照的に「5年未満」のグループでは、3者のいずれも45%を下回っている。

すなわち、「活動継続期間」が長いほど、協力体制も充実しているものと思われる。その要因としては、長い時間をかけて地域に周知された結果であり、また時間をかけて協力体制を整えていった結果であることが予想される。

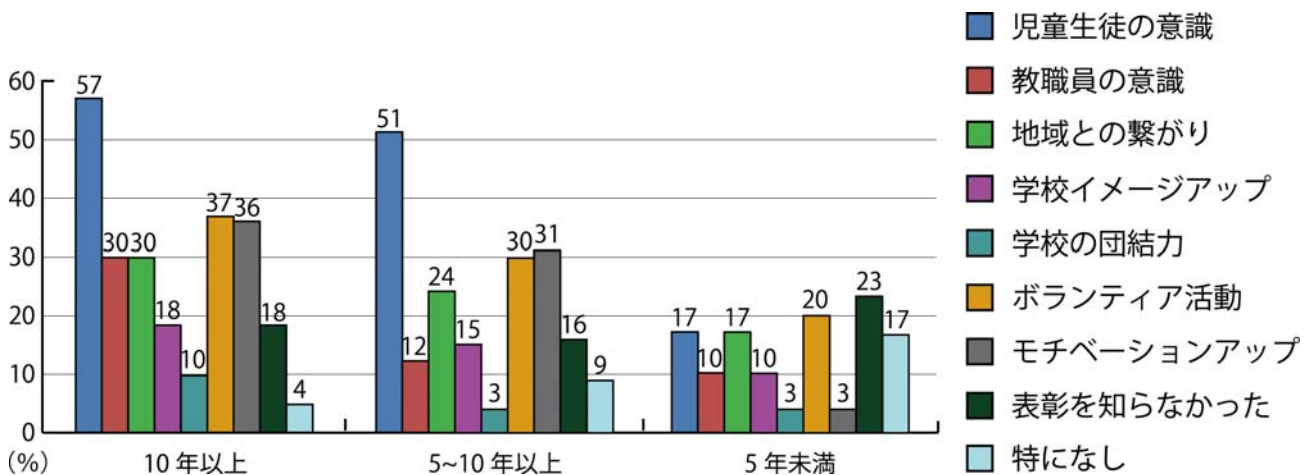
「活動継続期間」(Q7)と「活動継続の要因」(Q8)との関係



【分析コメント】

いずれのグループにおいても「環境美化に力を入れている」「児童・生徒の意欲関心が高い」「保護者や学校関係者からの協力を得られる」の3項目が高い傾向は同様である。しかし、割合では「10年以上」のグループが軒並み高いポイントであることに対し、「5~10年」と「5年未満」のグループではほぼすべての項目において「10年以上」のグループのポイントを下回っている。

「活動継続期間」(Q7)と「受賞の効果」(Q10)との関係



【分析コメント】

本設問においては「10年以上」と「5~10年」のグループに比較して「5年未満」のグループの、ほぼ全ての項目でポイントが低いことがわかる。また、「5~10年」のグループも「10年以上」のグループと比べると、わずかずつポイントが低い。

# “美しい環境を明日へ”

(社) 食品容器環境美化協会とは・・・

清涼飲料・ビールの飲料業界は、あき容器の散乱防止に取り組むため、1973年（昭和48）に任意団体を設立し、1982年（昭和57）から現在の社団法人として、環境美化活動を実施しています。“のんだあとはリサイクル”を呼びかける「統一美化マーク」を1981年に採用し、いろいろな機会を活用し、ポイ捨て防止、散乱防止、まちの美化の呼びかけを続けています。



## 活動-1 アダプト・プログラムの研究・普及

食環協がアダプト・プログラムの研究に着手したのは1997年。アメリカの事例調査、有識者を交えた研究会を経て、1998年に「日本版アダプト・プログラム」の提案を開始しました。食環協は全国各地へ情報を提供し、アダプトプログラムの普及を進めています。合意書・実施要綱・看板（アダプト・サイン）などの書式やデザインを紹介、視察の仲介・紹介、シンポジウムの各地開催、説明会への参画など、普及活動を展開しています。



## 活動-2 環境学習支援

①「環境美化教育優良校の表彰」と、②「総合的な学習の時間」のための、先生向け「学習ガイドの制作・提供」を2本の柱として、環境学習支援を行っています。



## 活動-3 「ポイ捨て防止」の啓発キャンペーン

統一美化マーク（下記）のもと、各種媒体やメディアを通じて、散乱防止の啓発に努めています。駅や社内のポスター・ステッカー、道路沿いの立看板、ポスターの掲出、バスラッピング広告など、目的に応じた方法で、散乱防止を呼びかけています。



## 活動-4 全国をカバーする「地方連絡会議」

飲料メーカー6団体傘下の企業が丸となって「地方連絡会議」を設置。食環協事業の推進役として地域の環境美化につとめる一方、各自治体に設けられた「ごみ減量化・再利用推進協議会」などと連携して、地域に根ざした活動を行っています。

全国に42の地方連絡会議を設置



「統一美化マーク」をここに掲げて…  
**のんだあとはリサイクル**  
 あちらこちらでお目にかかるこのマーク、じつは「統一美化マーク」と呼ばれています。昭和56年（1981）以来、食環協から消費者のみならず、企業へのメッセージとして、新聞・テレビ広告、自動販売機、道路沿いの立看板、のぼり、横断幕…に登場しています。

### ●食環協を構成する会員団体

- 社団法人 全国清涼飲料工業会
- 社団法人 全国トマト工業会
- 社団法人 日本果汁協会
- 日本コーヒー飲料協会
- コカ・コーラ協会
- ビール酒造組合



社団法人 **食品容器環境美化協会**

〒108-0023

東京都港区芝浦2-15-16 田町K.Sビル6階

TEL.03-5439-5121 FAX.03-5476-2883

URL <http://www.kankyobika.or.jp>